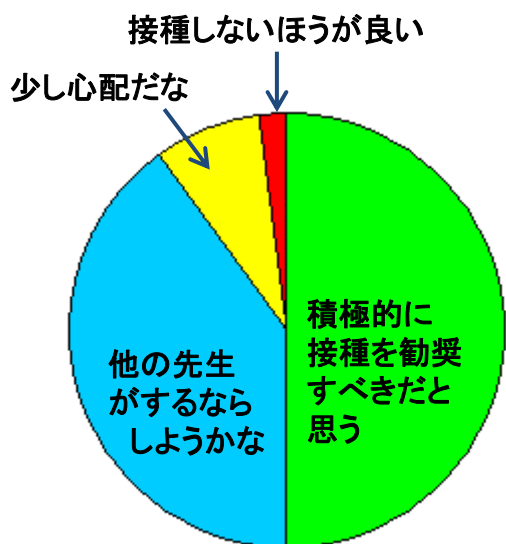
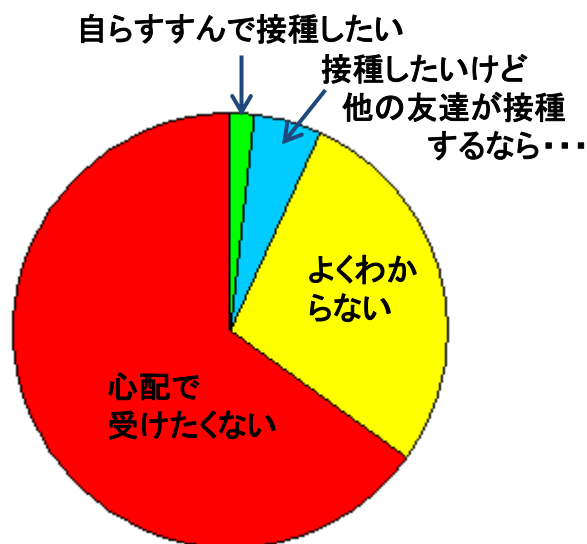


子宮頸がん予防ワクチン 受けたほうがいいのか？



医師の気持ち



親御さんや女の子の気持ち

もし、アンケートをとったら、今（2016）はこんな感じでしょうか。（イメージ）
テレビにさかんに流れた副作用？の動画は、あれは精神科という偽発作という病態だと考えられています。例えば、小児科でよくみる「熱性けいれん」。あれだって一般の人はあまり見たことがないですね。そういう病気があることを知らない人がいたとして、熱性けいれんが予防接種の1週間後に起こったら関連づけて考えてしまうかもしれません。どうしてこんなにギャップがあるのか。いろいろあるけど、一番はマスコミのせいです。コマーシャルと同じようなものです。
もちろん、成人になって、子宮頸がん検診を、毎年きちんと受ければ、子宮頸がんになる手前の「前がん病変」の段階で見つかり、手術するなどして、がんにならず、命も助かると思います。ワクチンに本当に副作用が多いのなら、検診を受けるほうが良いかもしれません。しかし、そうでなければ、子宮頸がんの原因であるウイルスの感染そのものを防ぎ、前がん病変になるのを防ぐワクチンを利用する、それも公費負担で接種できる期間（高1まで）のうちに受けておくことはとても大切なことです。
接種勧奨を控えている日本の行政の態度を、WHOは名指しで非難しています。日本産婦人科学会、日本小児科学会も接種勧奨の再開を訴えています。でも、今だって普通に受けてかまわないんですよ。

20～30代の若い女性に
子宮頸がんが増えています。

子宮頸がんで毎年3,000人の女性が
命を落としています¹⁾

● 子宮頸がんは、20～30代での発症率が年々増加傾向にあります。

子宮頸がん罹患率および死亡率の推移（日本の20～30代女性）



*：上皮内がんを含まない。

国立がん研究センターがん情報センター がん登録・統計・予防・対策部 がん登録部（1975年～2011年）の作成
国立がん研究センターがん情報センター がん登録・統計・予防・対策部 がん登録部（1975年～2013年）の作成

日本における子宮頸がんの発症数と死亡数

- 1年間に約10,000人も女性が子宮頸がんを発症しています。¹⁾
- 1年間に約3,000人の女性が子宮頸がんで死亡しています。¹⁾
- 20～30歳代女性で、子宮頸がんは罹患率・死亡率ともに増加しています。^{2),3)}



1) 厚生労働省 子宮頸がん予防ワクチンQ&A http://www.mhlw.go.jp/bunseki/kenkou/ansoku/kanshouhou28/qa_shiyoukeigan_vaccine.html
2) 国立がん研究センターがん情報センター がん登録・統計・予防・対策部 がん登録部（1975年～2011年）の作成
3) 国立がん研究センターがん情報センター がん登録・統計・予防・対策部 がん登録部（1975年～2013年）の作成